

《担当者名》教授 / 小林 道也

【概要】

臨床研究の模擬データを用いて、具体的な統計解析を行う。また、得られた結果から新たな問題を提起し、これを解決するための方法について討論する。

【学修目標】

- ・パラメトリックデータについて適切な統計解析を行い、評価することができる。
- ・ノンパラメトリックデータを定義付けし、適切な統計解析を行い、評価することができる。
- ・得られた結果から新たな問題点を提起し、これを解決するための方法を提案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	パラメトリックデータ解析	パラメトリックデータとノンパラメトリックデータの違いについて具体的事例を用いて説明できる。また、適切な t 検定を選択して、統計解析を行うことができる。	小林 道也
2	ノンパラメトリックデータ解析	ノンパラメトリックデータの具体的事例を用いて、適切な検定法を選択し、統計解析を行うことができる。	小林 道也
3	² 検定・Fisherの直接確率計算	具体的な事例を用いて、2群における発現率を ² 検定およびFisherの直接確率計算により比較検定できる。	小林 道也
4	計算・評価演習	模擬カルテ調査結果をもとにして、パラメトリックデータ・ノンパラメトリックデータの検定を行い、得られた結果を評価できる。	小林 道也
5	回帰分析	具体的な事例を用いて、回帰分析を行うことができる。	小林 道也
6	多重比較検定	3群以上の集団の平均値について、具体的な事例を用いて（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）による統計解析を行うことができる。	小林 道也
7 }	多変量解析	具体的な事例を用いて、多変量解析を行うことができる。	小林 道也
8			
9 }	多重ロジスティック回帰分析	具体的な事例を用いて、多重ロジスティック回帰分析を行い、影響因子を同定できる。	小林 道也
10			
11	カプランマイヤー法による解析	模擬データを用いてカプランマイヤー曲線を作成し、平均生存日数の算出とその統計解析を行うことができる。	小林 道也
12	総合演習（1）	模擬カルテ調査結果をもとにして、バイアスの有無を予測し、適切な評価を行うためのデータ整理を実践できる。	小林 道也
13	総合演習（2）	模擬カルテ調査結果をもとにして、適切な検定法を選択し、統計解析を行うことができる。	小林 道也
14	総合演習（3）	得られた結果から結論を導き、新たな問題点を抽出できる。	小林 道也
15	総合演習（4）	新たな問題点を解決するための臨床研究を立案できる。	小林 道也

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席態度（10%）、演習レポート（90%）により評価する。

【教科書】

医薬品情報・評価学第3版（河島進ほか、南江堂）

【参考書】

4 step エクセル統計第3版（柳井久江、オーエムエス出版）

【学修の準備】

Excelを使用する頻度が高いので、パソコンの使用に慣れておくこと。